

人間国宝・幸枝若 半生を新喜劇に

28日、なんばグランド花月で記念公演



「左甚五郎」披露

「浪曲の魅力を知って」

人間国宝に認定された姫路市出身の浪曲師、京山幸枝若の記念公演が28日、なんばグランド花月（NGK、大阪市）で催される。浪曲のほか半生を描く新喜劇を上演予定で、会見した幸枝若は「浪曲を知らない人にも分かりやすく、面白いネタを選んだ。楽しさを知ってもらおう機会になれば」と語った。（津田和納）

月亭八方、西川きよしら豪華ゲストも

1954年生まれ。浪曲師だった実父で師匠の初代京山幸枝若（故人）の芸風を受け継ぎ、72年に福太郎を襲名。一門が得意とする「会津の小鉄」「河内十人斬り」など、任侠物語を各地で上演してきた。

2004年に二代目幸枝若となり、NGKで記念公演を開催。24年冬、節と声、啖呵の3拍子で成り立つ芸と長年の功績が評価され、浪曲師として初めて人間国宝に認定された。

創業112年の吉本興業から人間国宝が生まれるのも初めて。かつての落語、漫才ブームの際に所属したが、NGKを含め同社の舞台に出演したのはわずか。幸枝若は「認定されてからの手のひら返しがい、バックアップしてもらい、浪曲の寄席をつくってもらいたい」と野心を見せた。

今回、幸枝若は「左甚五郎 掛川の宿」、弟子の幸太が新作浪曲「ギャルサー！」を披露する。会見には幸枝若から浪曲を習う落語家の月亭八方も登場し「今の時代に義理と人情の話はよろしいなあ。三味線と合

わせる芸は落語家にはなかなか難しい」と話すと、幸枝若は「あうんの呼吸で成り立つもの。1人で自由自在に演じて歌えるのが浪曲の楽しさ。いっぺんやってみよ、と思ってもらえる舞台にしたい」と語った。

また、高砂市出身で座長を務める吉田裕が福太郎時代を演じる新喜劇も上演される。吉田は「びっくりするような半生。大役なので不安」と言いつつも「今から浪曲を練習します」と意気込んだ。ほかに幸枝若、八方、西川きよし、ぼんちおさむらによる口上、オール阪神・巨人の漫才も。豪華メンバーが祝宴に花を添える。

午後6時開演。前売り5千円。FANYチケット ☎ 0570・550・100

人間国宝に認定され、記念公演を開く京山幸枝若（中央）と吉本新喜劇の座員ら。大阪市中央区難波千日前、なんばグランド花月